

アレルギー医療機関検索システムに関するログ解析調査結果

1 目的

アレルギー疾患患者等の治療ニーズや県内の地域性を把握し、今後のアレルギー疾患医療の正しい知識の普及及び情報の提供に繋げる。

また、より多くのアクセスを見込めるよう、サイトの改善等を検討するための基礎資料とする。
(サイト画面は別紙参照)

2 調査の概要

(1) サイト及び対象ログ

サイト名: 埼玉県アレルギー疾患医療拠点病院 [医療機関検索]

U R L: <http://allergy.saitama-med.ac.jp/search.html>

ログ: 「食物アレルギー」及び「ぜんそく」について検索ボタンを押下した時点の絞り込み履歴を対象とする。

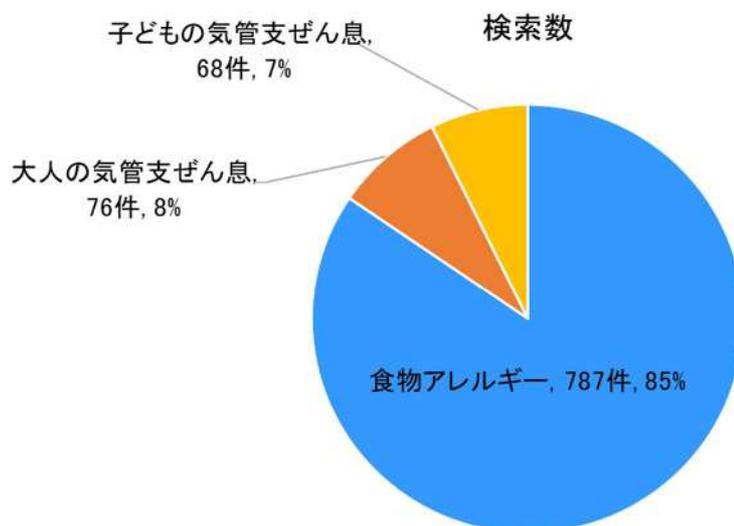
(2) 調査期間 令和2年7月28日～令和2年11月30日(約4カ月間)

※本システムは令和元年7月10日から稼働しており、ログ解析の環境が整ったため、過去4カ月のデータ集計を行った。なお、現在も集計中である。

3 結果

(1) 総検索数

対象の総検索数は931で、そのうち「食物アレルギー」の割合は約85%、「大人の気管支ぜん息」の割合は約8%、「子どもの気管支ぜん息」の割合は約7%であった。



(2) 市町村別検索数

下記のグラフは市町村に☑を入れて検索した回数をマップグラフ化したもの。

検索数が最も多かったのはさいたま市で151件、次に熊谷市の114件、3番目が川越市の81件と続く。

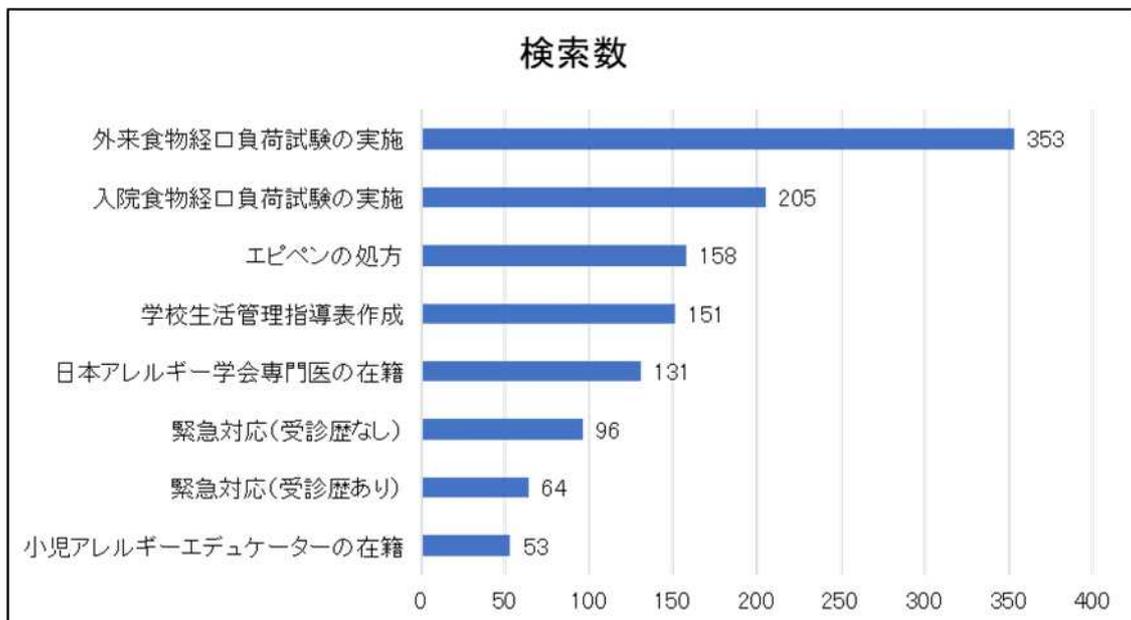


(3) 各種項目の検索数

① 食物アレルギー

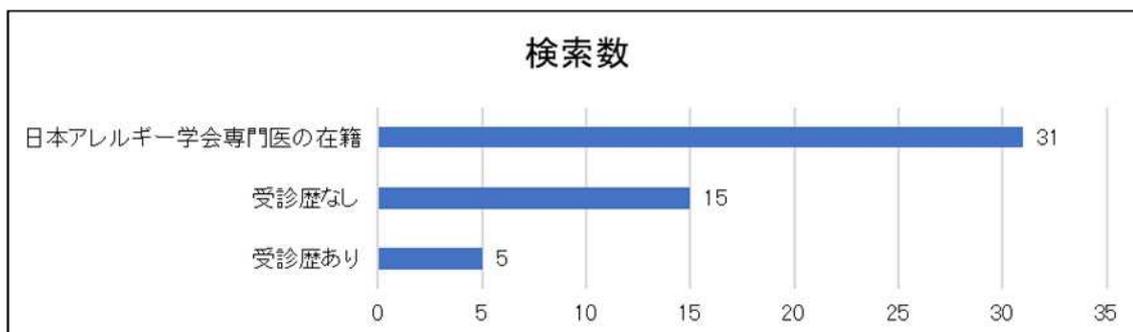
食物アレルギーの総検索数は787件で、そのうち外来食物経口負荷試験の実施に☑を入れて検索したのは353件(約44%)であった。入院食物経口負荷試験の実施に☑を入れて検索したのは205件(約26%)であった。

また、エピペンの処方に☑を入れて検索したのは158件(約20%)であった。



②大人の気管支ぜん息

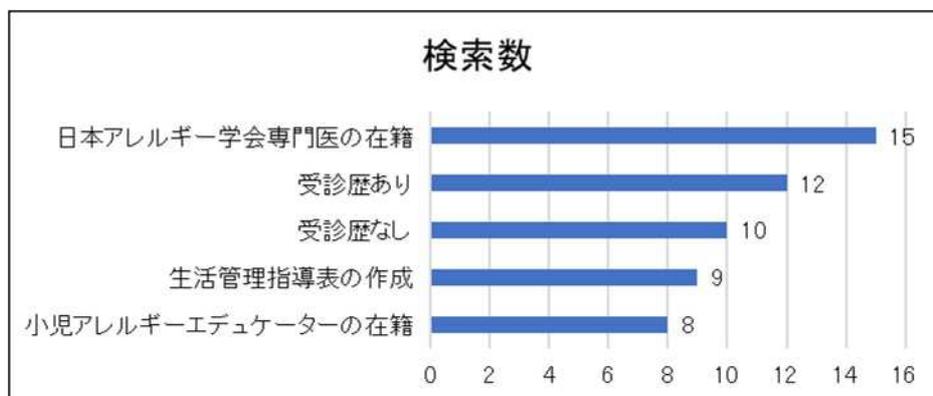
大人の気管支ぜん息の総検索数は76件で、そのうち日本アレルギー学会専門医の在籍に☑を入れて検索したのは31件(約40%)であった



③子どもの気管支ぜん息

子どもの気管支ぜん息の総検索数は68件で、そのうち日本アレルギー学会専門医の在籍に☑を入れて検索したのは15件(約22%)であった。

また、“受診歴なし”で検索した数より“受診歴あり”で検索した数の方が多かった。



4 考察

全体の検索数については、食物アレルギーと気管支ぜん息で大きな差がみられた。これは、疾患毎の検索需要の他、2疾患で検索システムの公開日が異なっていることや広報状況の違いが影響していると考えられる。具体的には、気管支ぜん息検索システムの公開日直後から新型コロナウイルス感染症の流行により緊急事態宣言が発令され、十分な周知ができなかったこと等が挙げられる。

食物アレルギーの検索については、「食物経口負荷試験」の実施医療機関を検索する目的での利用が多かった。これは本検索システムの利用者層が、食物アレルギーの治療の知識を持っている人に偏っているためだと考えられる。

今後は、幅広い層の利用に繋げるために、各施設や各市町村への広報等を進めていく必要がある。また、システム情報のアップデートやサイトの再構築についても検討していく。

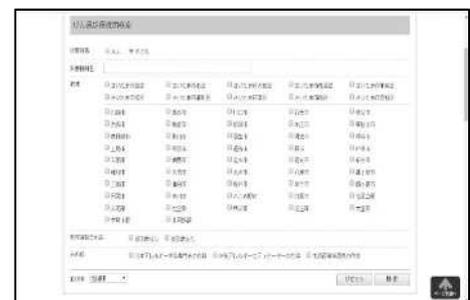
医療機関検索 ホームページ

- ・医療機関検索 トップページ



大人の気管支ぜん息

子どもの気管支ぜん息



- ・医療機関 詳細情報



-イメージ-